

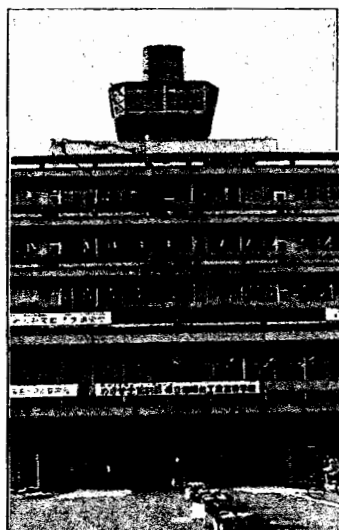
2005（平成17）年10月29日（土）

発行・相模原市議会をよくする会

9月定例会版

市議会全員協議会は公開せよ

時代遅れ — 県内19市で非公開は相模原、綾瀬、厚木、秦野、大和の5市だけ！



相模原市本庁舎

相模原市議会は、本会議、常任委員会（総務、民生、環境経済建設、文教の5つ）、議会運営委員会、特別委員会（基地対策、交通問題、少子・高齢化対策、防災対策、合併問題、産業集積対策の6つ）から構成されている。

しかし、本会が傍聴する常任委員会での質疑や議員との会話のなかでは、「全員協議会」という言葉が頻繁に聞かれる。ところが、市議会が発行する『市議会のしおり』には、その言葉さえ出てこない。

実はこの全員協議会は市が開催し、46議員全員に、市の重要な計画・施策などについて、議案の提案前に予告や解説をしている大事な会議である。多くの問題がここで顕在化し、議員の了解を取ったり、反応をさぐるという訳だ。

この会議を市民に公開していない市議会は県内19市のうち、本市のほか4市に過ぎない。（下表参照）開かれた議会を目指すという相模原市議会が「非公開」などと言っているのは、「県北のリーダー」とか「中核市」などはおこがましい。

全員協議会の公開状況一覧

2005/10/19

- 横浜市 モニター傍聴
川崎市 ○
横須賀市 ○
平塚市 ○
鎌倉市 ○
藤沢市 ○
小田原市 ○
茅ヶ崎市 △
逗子市 ○

相模原市 ●

三浦市 ○

秦野市 ●

厚木市 ●

大和市 ●

伊勢原市 ○

海老名市 ○

座間市 ○

南足柄市 ○

綾瀬市 ●

(注) ○ 原則公開
● 非公開
△ 制限公開

★町村の状況☆

- 葉山町 ●
寒川町 ●
大磯町 ●
二宮町 ○
中井町 ○
大井町 ●
松田町 ○
山北町 ●
開成町 ○
箱根町 ●
真鶴町 ●
湯河原町 ●
愛川町 ●
城山町 ●
津久井町 ●
相模湖町 ●
藤野町 ●

清川村 ● ←

★本紙名の The Galleryは、欧米では議会などの傍聴席を意味します。

傍聴報告・9月定例会

■本会議 (感想と意見) (8月26日、9月6, 7, 28, 29, 30日の6日間)

1. 請願第3号「住基台帳の駆け込み大量閲覧防止条例に制定を」で、閲覧制度の悪用を懸念し、請願支持の意見を述べ、その説得力でもっともだと思わせたが、市政クラブ、公明党の反対で不採択。色々あろうが、議会の常識は普通と違う。
2. 菅野議員、市の産業集積促進条例、同基金条例で、横河電機の誘致決定に際して、黒字なのに5億円もの奨励金を市が出すのかと反対討論したが、市議会全体は経済優先の様相。
3. 西村議員、火災報知機の義務づけ条例に反対討論。1基7千円のを2、3個設置は、いくら国の法律が改正されたといっても市は無責任、それでも地方分権かと主張。間違いなく潤うのは業者と発言していた。
4. 教育基本法関連の陳情に西村議員と松永議員が賛成討論。2人の言うことを総合すると、憲法改正の論議の高まりで、教育の憲法といわれる教育基本法が改変され、祖国愛が盛り込まれる方向へ向かうという。市議会はすべて不採択。
5. 市立中学完全給食の早期実現の陳情に松永議員が賛成、全国の76%は実施済と説明。友成議員は調理場は1校で3億円、27校では81億円もする。そんなのは無理と反対。ほんとにそんなに掛かるの？将来を担う中学生の心と体の健康のために、給食は大きな投資だと思う。
6. 沼倉議員、まだ時々読み間違い、訂正があるが、朗読技術が格段と向上した。努力の成果が見られ、自信も見え隠れする。
7. 東條議員が、決算討論で弱者いじめト小泉首相批判を展開してると、「中身、始めろ！」の野次。議員の強い思いは理解できるが、荒い息遣いが聞こえ、頭に抜けるような発声ではなく、出来れば低音にして冷静沈着に聴かせてほしい。
8. 川田議員、決算討論で賛成意見。心から政令指定都市を目指しているようだった。
9. 長友克議員が賛成討論。市長の考えを職員にしっかり認識させてほしい。一方通行でない携帯でもメールでも、と。具体的に何を言ってるのかな？ そうい
- えば、そのあとで発言した友成議員も、市長と職員が同じ方向に向いているのか疑問だと言っていた。
10. 友成議員、市の団塊の世代が毎年1万人退職、就職は3千から5千人。このギャップは即課税収入の減となる。また、合併する2町分の滞納繰り越金48億円を相模原市が引き受けるとも言う。さらに津久井町は中学校の教科書16のうち12を相模原と違うものを選んだという。吸収合併なら相模原に合わせるべきで、教育委員会は4町の教育委員会によく説明すべきだと言っていた。今頃言っても仕方ないのでは。
11. 田中議員、総括で、30年前から日本の米軍基地で起こったことが、米国大使館経由国務省に逐一報告されているから、反対集会を開けばかなり米国にインパクトを与え得るとの発言は注目された。
12. 決算討論の中で、長友克、岩本、友成の各議員が、予算に批判的発言をしながら、予算に賛成の立場に立つというのは何か不徹底な一貫性のなさを感じさせた。
13. 一般質問での金子議員の、写真付きの基地問題の質問は注目に値する。仮に第一軍団が座間に移駐し、相模原補給廠も世界的に注目された場合、テロリストの魅力的な対象になるとの指摘は一瞬ぞっとさせるものだった。市は21万人の反対署名でほっとせず、次々と手を打ってほしい。
14. 溝淵議員が合併についての基本理念について、偶然と必然が運命を作るのだから、市も運命と心得、敢然と立ち向かう姿勢で一体化を図るべしとする意見は、なかなか含蓄あるものと思わせた。
15. 菅野議員、女性労働者の雇用実態で質問した。市は、いま非常勤職員が全部で25.5万人(昨年実績)いるが、23万人を占めているのは女性向きの仕事が多かったからと説明。菅野議員はこれに対し、女性差別を無くすには結果の平等を重視すべきであると主張。更にスウェーデンには「使い捨ての雇用実態では人口は増えない」という言葉があることを紹介した。
16. 一般質問の中で重要性の増す基地問題に対し、市政クラブと公明党のいわゆる与党議員から全く質問なく、故意に静かにしていると疑いたくなる姿勢だった。市政クラ

ブは佐藤議員の総括質疑で基地問題は終了とみていたのだろうか。

17. 米山議員、平和都市相模原の構築のことで、国連など平和運動の情報を市民にPRしてほしいと要望していたが、基地反対運動が平和運動そのものなのに、なぜ言及しないのだろうか。
18. 市職員の答弁には問題がある。簡単な答弁で済むのに、この際知ってることを披瀝したいのか、だらだらと冗長な答弁

は時間の無駄。また、いちいち「先ほど市長がご答弁申し上げたとおり」の前置きは市長への迎合か。市長が答えたことは繰り返さないでほしい。これも時間の無駄だ。

19. 山口助役が退任挨拶で登壇。助役就任は小川市長の市長就任と同じ年だそうで市政運営のパートナーとして感慨無量の面持ちであった。

■委員会 (感想と意見)

■ 総務委員会 (9月9日)

- 大上委員、職員の専門職育成の必要性を述べ、例として市の土地売買などの専門家を挙げていた。3～5年での異動では育たないとのことだが、もっともな話。素人集団では心もとないのは事実だ。

- 平成16年度の会計支出のなかで、興味深い数字が出ていた。(円)

★議会費 議会だより 年6回 14,759,000
国際費(トウト) 6,096,052
(渡航費・随行員1人含む)

★総務費 市史編纂 33,903,878
自動車購入 12,281,245

★広報費 広報がみら 94,583,291

★企画費 合併調査研究費 48,712,102
市民活動センター 18,402,566
国際交流ラツツ 20,781,665

[意外な数字が有りますか?]

- 友成委員の質問から、フットボールセンターの応募状況が分かりました。カッコ内は市内在住者からの応募です)経費は2400万円かかっています。

2001年度 3287 (1011)人

2002年度 3244 (740)人

2003年度 3748 (665)人

2004年度 3090 (455)人

2005年度 2645 (467)人

▲市内応募者が年々減少は寂しい。全体的にも、魅力の維持が必要だ。

- 沼倉委員長のマイク使用注意など、キチンとした運営に好感。

- 「相模原市一般職の勤務条件に関する条例」案で、パートの扱い(友成委員)や休みの取れる環境づくり(阿部委員)などの質問・要望が相次いでいた。育児休暇では男性の44%が取得、日数は平均2.91日ということ。 ■

■ 環境経済委員会 (9月12日)

- このところ、委員長のマイク使用の注意が徹底してるのに、相変わらずウツカリする委員が後をたたない。フォローをシッカリ。

- いい質問も的確な答弁もあるが、委員はその答えを得て審議にどう役立っているのか分からない。ただ聞いてみたいではダメ。

- 久保田委員、産業集積促進条例のところで導入の遅れを指摘、メリットとして10%の補助や市として1600億円の経済効果を挙げていた。インベスト・カナガワの先行着手企業として横河電機。津久井方面への立地も示唆していたが、合併のメリットとしたのか。

- 同条例で、米山委員が障害者雇用の達成率を守らせるよう要望。

- 同じ条例で、東條委員は条件のハードルが高すぎる点(1億円規模)を指摘したが、市は人員6人規模の平均と答えていた。因みに市内の企業で10人以上の従業員を持つのは54%とのことだった。

- 金子委員が、他の条例との併用の可能性について問い、インベスト・カナガワとは可能との答え。国や県の支援はない。

- 折笠委員、調整区域への立地を検討するよう要請していた。目下、土地利用を市が決められるよう進めているとの情報を示した。

- 藤井委員は、この条例の背景や趣旨を改めて聞きたいとしたが、市側は市内の企業の減少が裏にあると説明、その証として工業統計での出荷減、人員減、法人市民税の減が製造業で進んでいる状況を示した。住宅建設も減っているとのことだが、新築住宅が目立つ割りにはそうなのか。

- 小俣委員、ゴミ収集の市内業者の優先と事業系ゴミの夜間収集促進を要望した。

- 金子委員、米軍機騒音問題で質問。市内の測定箇所は4、南合同庁舎での基準は75dB。時にはmax107～111dBも記録されると言っていた。 ■

■民生委員会（9月13日）

- 平成16年度相模原市介護保健事業特別会計歳入歳出決算で、溝渕委員「居宅介護サービス82社で、量は充足だが質の向上が必要だ。市の職員が介護を受ける人の状態を調査するための訪問の仕組みを作る制度改正が必要」と力説。それに対して他市の例を引き合いに説明しかけた職員に「聞いていることに答えよ。他がどうかは必要ない。市として必要ならやればいい！事業者を指導監督するには現場へ行くことが大事」と叱咤。
- 松永委員、市の特養ホーム入所待機者は今年4月で2,038名、施設から在宅への国の施策で国民の負担は増えている。市が防波堤になってほしいと要望した。
- 請願第3号は「住民基本台帳の駆け込み大量閲覧防止条例の制定を求める」ものだったが、2：5の賛成少数で不採択。市政クラブ・公明党を除く前会派と無所属議員全員が紹介議員になっての請願だった。なぜ賛成出来ないのか反対の2会派は説明できるのか。
- 石井委員の反対理由は振るってる。「採択しても条例改正と時期は同じ位になってしまいうんだから意味がない」この委員の感覚はどうかしていないか。
- 松永委員、国も閲覧は原則禁止の方向で検討を進めており、国会に提案されれば可決と予想はされるが、法改正には期間が要する。個人情報保護の面からも考慮すべきだと賛成していた。
- 石井委員、自治会問題を取り上げ、現在集会所保有の自治会は433の内、339だけ。94はまだ持てないと説明。現在の建築補助額限度（800万円）は少なすぎる。また修理費は出せないかとの妥当な要請だったが、市は「今後の課題としたい」の役所的回答だった。

■建設委員会（9月14日）

- 「街づくり活動推進条例」で、由比委員が豊町は地区計画があるが旭町はどうかと質問、市はこの条例で緩和されていくと説明していた。
- 寺山委員、推進団体の存在について心配を表明したが、8条1の1項で規制し団体登録成立には市の方針をキチンと伝えろと市が説明した。
- 田中委員が第5条（開発業者の責務）で

法律面や人員構成についても質問、前者は3者のパート・シフトであり、人数も問題ないと答えていたが、不安はついてまわりそうである。

- 久保田委員、個人的に関心があるとして、「開発事業基本条例」について条例の狙いを質問していた。市側は次の5点を説明。①早期周知 ②市民が意見を述べられること ③罰則設置 ④ゆとり事業地の奨励 ⑤公共施設の条例化（合併の2町は3年以内に従うこと）さらに、「建築に係わる紛争予防条例」について、占有者の範囲について質問したが市は所有者に加え、賃貸者、営業者を対象との答えだった。
- 内田都市部長、関山委員を「先生」と2回も呼び、日頃部長が議員に接する姿勢を暴露していた。このような職員が議員をダメにし、若い職員に悪影響を与える。
- 「工事請け負い契約」（議案96号）で、稲垣委員が落札率99.95（除消費税）%はおかしいと指摘。契約課長は、業者間の話し合いについて問い合わせたが無いとのこと、また談合情報も無かったので問題ないと契約したと答弁。情報が無ければ談合なしというが、これだけの落札率は厳格な自主的調査が必要ではないか。
【事実】市予定価格 508,270,000 円
落札価格 508,000,000 円
落札率 99.95%
★5億円超の工事で、落札出来なかった他の4社の見積もりも20万円から26万円の間に納まっていた。神業でなければ相談無しにこの計算は出来ない？
- 長友義委員、工期520日は長すぎると指摘。また建ぺい率30%は低すぎるし、免震構造でもある。「相模原的市営住宅」のあり方を研究すべきと提言したのは納得。市は、予定価格の積算は国土交通省の基準でやっているし、単価も3社からの見積もりから最下方から取っているなどの説明もあったが、談合の余地を無くす工夫こそ市の務めではないか。議案に反対した。
- 加山助役、談合対策として、民間の考えを聞く会を設立したと説明、より良い発注を実現するよう約束した。その会の全容が公表されなくてはならない。
- 「市道の認定」について、山下委員が地図の作り方の改善を指示した。確かに見づらいものだ。
- 田中委員が、いかに袋小路が多いかと驚いていたが、防災上大丈夫か。

- 稲垣委員、突き出し看板の調査を要望していたが、問題の看板が2220個あることが判明。台帳整備して、2人構成の2班で取り敢えず600個撤去予定とのこと。この間、放置車の撤去が平成14年210台、15年161台、16年93台があった事がわかった。
- 関山委員、カーブミラーの高さを質問。バカな質問にびっくりしたが、もっと驚いたのは職員の誰も答えられなかったことだ。日頃関係部署を訪ねて聞けばいい事ばかりを質問しないで。議案の審議をして下さい。
- 道路整備課長、山下委員に「先生」と呼びかけ、さらにへらへら笑い、追従もここまで来ると醜い。
- 須田委員長は発言者の指名だけでなく、市職員の答弁を単刀直入に行うよう指示しなくてはならない。職員はオマケの話が好きなのだが、限られた時間には節度を求めてしかりだ。

■文教委員会（9月15日）

- 山田委員、市内の小中学校は築後30年以上を経過し、大規模改修の時期がきている。学ぶ場所の環境改善に努力をと訴えていた。特に中学は3年間しかないので「待つて」は通じないと強調。
- 長友克委員、学校評議員の名簿は平均年齢が60才、もっと現場に近い人にもなってほしいと訴えたが、道理だ。また「ヤング・テレフォン」に電子メールの活用を提案したのに対し、「他市の状況を見ながら今後検討していきたい」との答弁に、4年も前にも「具体的な検討を進めていく」と答えていたことを挙げ、まだやるのか、やらないならやらないと言えればいい、と鋭く追求していた。この位の威勢は必要だ。
- 西村委員、非常勤講師任用日数が多いがとの質問に、市は教師の長期療養休暇の増加によると回答。原因は職務の多さかとの確認に、市は多忙化は事実だが、使命感でやっている」と回答。西村委員は、使命感だけでは解決できない。子どもへの影響も出ているはず、市費での負担軽減で抜本的改善を、給食施設等も含め、陸上競技場建設費よりも教育費増をと要望していた。
- 教育基本法改正問題に関わる陳情が5件あったが、第20号のみ賛成ゼロ、他は賛

成少数（2：6）で不採択になった。各委員の発言は次のようなものだった。

川上委員＝決心の問題なのかな。考えてみたが判断する情報量がない。

山田委員＝双方主張がある。一方だけということでは出来ない。数で決めるようなものではない。

長友克委員＝改正してはいけない。審議はしない事は認めない。

岩本委員＝今は改正すべきではない。

細谷委員＝継続してきたが判断する時期。会派はどちらにも賛成出来ぬ。

西村委員＝付託された以上、委員会として結論を出すべき。20号を除き採択したい。

- 陳情第34号は「中学完全給食早期実現」を求めるもの。賛成少数(2:6)で不採択。委員の発言....。

西村委員＝陳情主旨に賛成。社会状況からみても待ち望まれている。採択するいい機会。市の実施に向けて後押しする意味で、委員会として先行する事に意義あり。

長友克委員＝給食自体は否定しないが、検討委員会での総括なしで直ぐに完全給食実施は、市独自の予算を伴うことなので採択不可能。

山田委員＝総括的には推進に異議ないが、「早期に」は予算措置を伴う以上、不採択。

岩本委員＝「早期に」のとり方を柔軟に受け取って採択を。中学の昼食時間確保は貴重。

川上委員＝山田、長友克委員に同じ。小学校の給食施設だけでも完了に多額の費用を要す。中学の整備には90億必要。金を掛けないでやる方法は？

9月29日の「だらけ」本会議

★長い傍聴の日々を振り返っても、こんなひどい事はなかった。市長の体調不良が市議会の士気にまで影響するのかと思った。病欠の3議員の欠席はしかたないが、10人の離席、12名の断続的な居眠り、大きな私語のゾーンが3つ。

★市側の幹部の答弁はただ冗長さが目立ち、ふた言目には「市長がお答えしたように」では答弁の重複だ。ガラガラの傍聴席は市民の無関心の証。真剣に相模原市の行く末を憂う人が居なかった。(A)

市幹部定年後の行方は？

— 公社などに指定席 —

昨今中央官庁の「天下り」による民間企業への転職は、官業癒着の根源として問題視されている。それでは地方自治体ではなにが起きているか。本会では、相模原市の幹部たちは定年退職後にどのような生活を送るのか調べてみた。自治体の職員が定年後、市関連の職場に止まることは、特殊・特別の事情（経験・能力）次第で地方公務員法（第28条）で許されている。これらは幹部の特権でもあり、果して市民感覚からみて理解されるものであろうか。職員数の削減などが行政改革で挙げられるいま法律・条例等そのものの検討が必要ではないか。

もちろん、課長級以下の職員にも同様のケースはあるが、今回は市議会本会議に説明者として列席するクラスに絞った。（職員課・情報公開資料）

平成16年3月31日付け定年退職者 (敬称略)			
退職時職名	氏名	再雇用幹旋先 (当初)	
1. 企画部専任参事	樋口 武	相模原市都市整備公社	淵野辺公園所長
2. 総務部長	落合洋一	相模原市文化財団	常任理事
3. 総務部専任参事	井上正明	相模原市都市整備公社	理事長
4. 財務部専任参事	落合利之	相模原市都市整備公社	市立立体駐車場所長
5. 高齢者福祉担当部長	小形吉正	相模原市体育協会	常務理事
6. 市民部長	小泉敏男	橋本駅第一開発ビル(株)	専務取締役
7. 議会事務局長	後藤輝雄	相模原市都市整備公社	相模原ふれあい科学館館長
8. 監査委員会事務局長	座間 直	相模原市都市整備公社	市民健康文化センター所長

平成17年3月31日付け定年退職者 (敬称略)			
退職時職名	氏名	再雇用幹旋先 (当初)	
1. 防災対策担当部長	小澤研二	相模原市交通安全協会	事務長
2. 保健福祉部専任参事	興水孝昭	相模原市中小企業 勤労者福祉サービスセンター	常任理事
3. 保健福祉部専任参事	荻原桂一	相模原市都市整備公社	相模大野立体駐車場所長
4. 保健所専任参事	荻原偉史	相模原歯科医師会	事務局長
5. 環境保全部専任参事	金子 勝	相模原市都市整備公社	横山公園所長
6. 建築部長	吉田政雄	相模原市都市整備公社	銀河アリーナ所長
7. 土木部専任参事	笹野正勝	相模原市都市整備公社	橋本駅第2自動車駐車場所長
8. 管理部長	松本孝一	相模原市社会福祉協議会	常務理事
9. 選挙管理委員会事務局長	永山一雄	相模原市医師会	事務局長

長欠議員の進退を考える

地方自治法によれば、議員のリコール（一定数以上の選挙民の総意によって、要職にあるものの解職を要求すること）には、相模原市の場合、約139,000人ほどの署名が必要だ。また自らの辞職願は、議会の3分の2以上の賛成、閉会中なら議長が許可できるようだ。自動的に失職するのは、被選挙権の喪失（裁判所の判決）、兼職兼業、任期満了そして議会の解散などである。現在長期欠席している2名の議員の進退に関心を示すものが多いなか、本会は過去1年余りの議員の「本会議」の出欠記録を探った。

最近9議会の本会議出欠一覧 (特記以外は病欠/敬称略)	
	武原 友成 村上 香野 川上 山岸 清岡 河本
■平成16年3月定例会	
2月24日	●
3月3日	●
4	●
23	●
24	●
25	●
■平成16年6月定例会	
6月3日	●
9	●
28	●
29	●
30	●
■平成16年9月定例会	
8月28日	●
9月6日	●
7	●
28	●
29	●
30	●
■平成16年12月定例会	
11月24日	●
30	●
12月26日	●
21	●
22	●
■平成17年2月臨時会	
2月7日	●
14	●
■平成17年3月定例会	
2月22日	●
3月2日	●
3	●
23	●
25	●
28	●
29	●
30	●
■平成17年5月臨時会	
5月17日	●
18	●
■平成17年6月定例会	
6月3日	●
9	●
28	●
29	●
30	●
■平成17年9月定例会	
8月28日	●
9月6日	●
7	●
28	●
29	●
30	●

左表で見るように、議員の欠席は予想外に少ないようである。そこで目立っているのが、村上容子議員（日本共産党）と武原祐子議員（神奈川ネット）の2人だが、村上議員は平成16年の9月定例会以降、実に5定例会と2臨時会を連続欠席している。本会議日数でみると34日も欠席している。武原議員は合計21本会議日の欠席で、断続的に出欠を繰り返している。ともに病欠とあって、個人的な同情を招いている一方、公職としての職務が遂行できない以上自主的な進退を問う声も聞かれる。ちなみに、9月定例会の最終議会運営委員会でも初めてこの長欠についての問題提起があった。

☆

相模原市議会議員の年間報酬は、特別な役職がないかぎり、月額67万円の報酬と年間ボーナス3.3月分（約326万円）を合わせ、合計11,245,950円である。このほか、「政務調査費」が議員ひとりあたり月額10万円が使える事になっているが、会派ごとにまとめて支給されるので、各派では在籍議員数で収入として入っている。議会事務局によれば、村上議員の分は使用されずに戻っている。事実上本人が政務調査活動ができないので、当然のことといえる。報酬支給を市民はどう思うか。

議員辞職の意味

議員は議会の許可や議長の許可（閉会中）で辞職できる（地方自治法第126条）。議員が自己の恣意に基づいてみだりに辞職できないようになっているのは、議員は選挙により住民の付託を受けて選出されたものだからである。

このことは、逆に言えば、議員が住民の付託に応えることが出来なくなった場合には、議会も議長もその辞職を許すことが出来るのであるから、議員自身の気持ち次第で、どのような道も採ることができる。もし、会派としての思惑が議員自身の意思を抑え、議員活動ができない議員の身分を維持させようとしているのなら、住民も議員自身もそれほど不幸なことではないのではないだろうか。

【資料】は市議会発行の「相模原市議会会議録」から作成したもの。議員名は名字（姓）のみ記載しました。

衆院選公開討論会に協力参加

— 本会会員が中心的に運営 —

9月11日に行われた歴史に特記される衆議院選挙は、自民党と民主党の勢力図をさらに拡大する結果に終わった。今回の公開討論会では与党自民党の候補者が欠席という異例の事態だったが、会場のおじさい会館ホールは210名の聴衆で埋まった。本会からは、実行委員長に赤倉代表、コーディネーター役に渡辺登志子副代表と吉川隆之会員が、他数名とともに参加した。

なぜコーディネーターが
アロハシャツだったの？

吉川隆之

皆さまは市民運動やNPO活動は「特別な人々」がするものと思いませんか。本会は、市議会に関する真面目な議題を扱う会ではありますが、縁側の雑談気分で意見を交わす形式ばらない雰囲気であり、参加者が「特別な人々」であるという感覚はありません。

今回、公開討論会を行うに当たって、形式ばらない私たちの「市民」的感覚が出せれば、とコーディネーター2人が相談し、あえて軽装を選んでみました。さて、政治家も「特別な人」ではありません。市民の意見を代表して発言する普通の人々ですし、政治や行政に関心を持つ皆さまも「特別な人々」ではありません。今回の私たちの遊び心が、皆さまが政治や市民活動を身近に感じていただくきっかけになれば幸いです。(公開討論会・コーディネーター)



アロハで決めた2人のコンビ

ネット中継で変わる傍聴？

— 本会議減少・環境経済委増加 —

今年6月定例会から始まった市議会本会議のネット中継で、従来議場に出掛けなければ傍聴できなかった本会議の傍聴者席への影響が気になるところだが、この程本会は過去3年間の傍聴者数を議会事務局から入手した。17年度は残る12、3月の定例会を含まない数字で、年合計はさらに上乘せされる。本会議の数字が激減しているのは、中継による試聴が影響か。常任委員会の中継がないがやはり減少。環境経済委員会の激増は、委員会の抱える問題に市民の関心が高いことを物語っているようだ。

年度	本会議	議運委	(常任委員会)					(特別委員会)				総計	
			総務	民生	文教	環経	建設	基	交	少	防		合
15	789	63	39	53	27	40	24	3	0	2	1	2	1043
16	662	126	15	18	20	85	12	0	3	0	1	72	1014
17	156	24	6	10	7	114	16	0	0	0	0	2	335

【特別委】基(基地)交(交通)少(少子・高齢)防(防災)合(合併) <太線内注目>

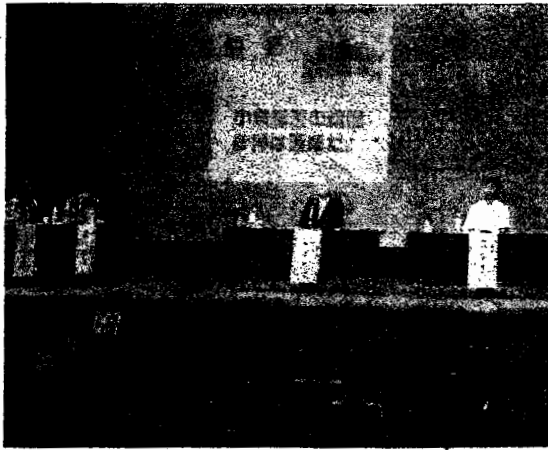
衆院選公 開討論会

13、14区で議論白熱

衆院選告示を前に神奈川県川14区の立候補予定者による公開討論会が八月二十七日夜七時から相模原市あじさい会館ホールで行われた。同討論会実行委員会(赤倉昭男代表)が主催。会場には約二百人が詰めかけたが、自民党新人候補の赤間二郎氏が再三交渉したが、選挙のスケジュールどうでも出られない(主催者)と欠席、民主党前職の藤井裕久氏、共産党新人の藤原正明氏の二人だけの討論になった。

14区 2氏が9条で対立

批判したが、憲法9条を巡っては藤井氏が「侵略戦争はやってはいけない以上、自衛隊は当然で、この国も持っている」と述べながら質問を交わした。この中で米陸軍第一司令部の移転については両氏とも反対、中国との関係でも小泉首相の外交を



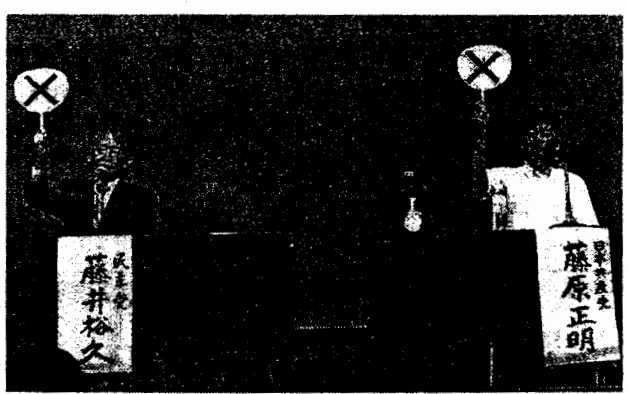
2人だけで行われた14区の討論会

が「国民の多数は戦争ができる国を望んでいない」として9条堅持を強調した。また、参議院の評価について藤原氏は「郵政民営化法案否決で参議院は冷静に判断した」と評価したが、藤井氏は当初の参院設置の目的に触れながら「本当のチェック機能を持つなら必要だが、今は選挙制度が参議院と同じ仕組みになっており、世界に例がない。衆議院と同じことをするな」と意味がない」と断じた。さらに、今回の選挙の最優先すべき政策に

ついて藤井氏は「年金問題」として「自民党の100年安心改革を許してはいけない。民主党は年金一元化に向けて次の通常国会で最大のテーマにする」と語り、藤原氏は「米軍基地の返還を最優先」として「基地返還縮小は世界の流れなのに日本だけが百三十万力所もあり、なお強化されよう

東京新聞 8月28日

14区で公開討論 基地や憲法、2氏訴え



衆院選神奈川県川14区の立候補予定者による公開討論のテーマについて自身論が二十七日夜、相模原市富士見のあじさい会館であった。民主党の元自民党の赤間二郎氏(み)藤井裕久氏(み)、共産党の新人藤原正明氏(み)の二氏が登壇し、基地や市民団体などをつくる

実行委員会(赤倉昭男代表)が主催した。約百九十人が耳を傾けた。討論会で国政の最優先課題を問われ、藤井氏は「年金、人口構成が昔と変わっているのに昔のままの制度でやろうとしている。それで『百年安心』なんて言っている政治は絶対に変えなければならぬ」と述べた。

一方の藤原氏は「キャンプ座間への米陸軍第一軍団司令部の移転反対。韓国、ヨーロッパなど世界的に米軍基地が縮小される中、日本だけ強化に向かっているのは、おかしい」と述べた。討論の様子は、地元ラジオ局「エフエムさがみ」(83・9兆)で、二十八日午後七時から放送されるという。

相模経済新聞 9月10日

報道転載

この後討論に入り、キャンプ座間への米陸軍第一司令部移転、憲法9条の戦力保持の否定と交戦権の放棄、中国との関係改善、公共事業の政官民業のゆき、郵政民営化法案を否決した参議院の評価、今回の選挙で争点になっている郵政、年金、サラリーマン増税、教育改革などで最優先する政策をテーマに両氏が意見を述べた。

朝日新聞 8月29日

選挙の風景

27日夜、200人以上の有権者が駆けつけた相模原市の公開討論会場。初めてコピーインターネットを務めた吉川隆之さん(32)は、アロハシャツに身を包み、落ち着いた声で質問を続けた。

「生の声」に胸打たれ

子供を見ていて、ふと思っ「国の借金は増え続け、少子高齢化も進む。2人が大人になつたときの社会を想像すると、怖くなつちやいましてね」。市民も政治家も、国の将来について真剣に考えている。討論を終えて壇上で感想を語る時、吉川さんは用意した原稿をふせて素直な気持ちで話した。「2人の討論に胸を打たれました。ありがとうございます。」「天下一をなくし、税金の無

相模原の公開討論会場

近隣団体との交流

— 11月20日、相模原で —

継続的に市議会の傍聴や行政の監視を続けている県内団体のうち、近隣の7団体が初めて交流会を持つことが決まった。相模原の本会が幹事役、参加予定の市町は、愛川、海老名、城山、茅ヶ崎、秦野、松田と本市。交流会では、各地の活動報告のあと議会改革、政務調査費、傍聴制度、会派の功罪、議員との関係、等を話し合う。

本会では、このあと11月27日に多摩市で開催される、都下の多摩、調布、東大和、相模原の4市の団体による議会に関するシンポジウムに参加を予定している。■

さぼせんフェスタ'05に参加

— パネル展示で議会の横顔紹介 —

本会は11月13日に市立「銀河アリーナ」のスケートリンク施設内で開催される「さがみはら市民活動サポートセンター」の開設3周年記念の「さがみはら市民活動フェスタ'05」に参加、市民に議会の姿を知ってもらうパネルを作成展示する。

パネル展示の内容は、市議会議員の居住地図、年代・男女・会派別分布図、一般質問の会派別分布、議員の兼業実態など、市議会の傍聴結果の報告とは別に、どのような議員たちが、私たち市民の代表者であるかの概要を、学校の児童・生徒にも分かりやすく示す企画です。ぜひご来場を。■

小川市長が長期加療

— 加山助役が当分職務を代理 —

今春執務中に体調を崩した小川勇夫市長はその後2度の入院を繰り返していたが、9月定例会の最終日本会議の答弁をこなした翌日の10月1日、慢性硬膜下血腫の本格的な治療のために市内の病院に入った。

小川市長が定例会の閉会あいさつのなかで説明した通り、職務代理者を置くことになり連休明けの10月11日から助役の加山俊夫氏が就任した。市が何年ぶりに職務代理者を置いたのか、総務部には記録がないという。(それで、キチンとした市史が編纂されるのか！)

小川市長は今年始めの市長選挙以来、津久井郡4町との合併問題や米軍基地の再編問題への対応に加え、3回の市議会定例会で過労が目立っていたが、無理がたたったようだ。いずれにしても、早い回復が望まれる。■

編集後記

♡ 行政上の大きな問題が起きるに従って市議会の全員協議会の開催が増えていく。県内自治体の実態を調べると、湘南地区は概ね公開、南西部(山側)は非公開の実態が見える。9政令指定都市・中核市・特例市のうち非公開は、相模原、厚木、大和の3市だけ。恥かしい思いでこの第26号の編集を終えたのである。「全員協議会を公開せよ」である。

12月定例会日程 (開始は毎日朝9時半から) ★陳情締切—12/20—

11月15日 (火) 議会運営委員会	12月7日 (水) 環境経済委員会
11月21日 (月) 本会議 (議案説明)	12月8日 (木) 建設委員会
11月30日 (水) 本会議 (総括質疑)	12月9日 (金) 文教委員会
12月1日 (木) 本会議 (予備日)	12月20日 (火) 本会議 (委員長報告)
12月5日 (月) 総務委員会	12月21日 (水) 本会議 (一般質問)
12月6日 (火) 民生委員会	12月22日 (木) 本会議 (一般質問、議運委)

□入会申込書□

<入会金不要>

私は会の趣旨に賛同し入会します。(A, B どちらか ○をつけてください)

氏名 _____

A. 会員 (傍聴など活動する) として

住所 _____

B. 賛助会員 (講読、支援する) として

☎・FAX _____

●年会費 (会員2000円、賛助会員1口1000円から)

★郵便振込番号: 00280-6-48430 相模原市議会をなくする会

★申込み先= 相模原市議会をよくする会・事務局 (代表/ 赤倉昭男)

〒228-0814 相模原市南台5-13-8 ☎/FAX 042-749-9140